



勇敢な騎士が、ドラゴンから王女を救いました。

38 竜を退治した騎士
(スイスの昔ばなし)

昔、ある国の王女様が、3匹の竜に深い洞穴の底に閉じ込められました。

3人の騎士が、ついにその洞穴の入口を捜し当てました。

「自分を縄で縛って降ろして欲しい。」一番勇気のある最年少の騎士が頼みました。臆病な他の二人は喜んでそうしました。

勇敢な騎士は、一人で恐ろしい3匹の竜を倒しました。

王女様は騎士と抱き合い、自分の心をささげますと誓いの指輪を渡しました。

美しい王女を引き上げると、ずるがしこい二人は手柄を横取りするため、綱が切れたふりをして、若い騎士を底へ落としました。

機転を利かせ難を逃れた騎士は、不思議な狐に助け出されました。

町に戻った騎士は、悪い仲間と王女様が結婚することを知りました。

何とか城に入った騎士は、祝宴のケーキに指輪を忍び込ませます。

不思議なことに指輪は、王女様のケーキの中に入りました。

王女様は、死んだと思っていた愛しい騎士が来てくれたことを喜び、

婚約者はこの人よと宣言しました。王女様と勇敢な騎士は結婚し、うそつきの騎士たちは厳しく罰せられました。

世界昔ばなしを科学する

このシリーズは、半導体技術で世界に貢献するロームがお届けしています。おなじみの世界の昔ばなしの中から毎回テーマを一つとりあげ、そこに隠れているいろいろな不思議を科学の視点で見つめます。さて、今回のおはなしは…

お知らせ

バックナンバーは、ロームの文化支援のサイトでご覧いただけます。
www.rohm.co.jpへアクセス

●竜との戦いは、水との戦いから始まった。「竜を退治した騎士」のように、「竜との戦い」を題材にした昔ばなしは、欧州から中国、ベトナム、日本、南米まで世界的に分布しています。竜の起源は古く、シュメール文明や、チグリス・ユーフラテス文明の頃から存在するようです。竜とは、年に度々起こる洪水のことという説があります。蛇行する川はまさしく竜を連想させますし、水神としても祀られます。また、水中のヘビが雷の姿になって竜となり、天に昇るといふ考え方もあります。こちらも雨に関係しますね。竜との戦いは、人類が治水に費やしてきた努力を暗示するのかもしれませんが。どの文化圏でもそれは重要ですので、類話が世界中にあるのもうなずけます。ちなみに、この昔ばなしの、指輪が真実を証明するというモチーフは後から付け加わったものだと思います。しかしこのモチーフも特に西洋の昔ばなしでは好まれ、いろんな昔ばなしに見られます。

●世界に点在したドラゴン。

ドラゴンは、この昔ばなしが生まれたスイスはもとより、世界のあらゆる国々の昔ばなしに出てきます。ひとくちに竜といっても、その呼称や姿形はさまざま。史上最古の竜・メソポタミアの巨大な海ヘビ竜「ティアマト」、ギリシャからヨーロッパ全土に広まった獅子の体に鷲の頭と翼を持つ「グリフォン」、同じくヨーロッパの

火トカゲ「サラマンダー」、旧約聖書に登場する、7つ頭の凶暴な海の竜「リヴァイアサン」、エジプトの太陽神・ラーの敵で悪の大蛇竜「アペピ」、ギリシャ神話の「ラドン」など。西洋の竜はこの昔ばなし同様、邪悪なモンスターとしての性格が強いのが特徴で、ほとんどが英雄によって倒される運命です。

●アジアの竜。

一方、東洋には、南アジアから東南アジアにかけてのナーガと、東アジアの竜がいます。こちらは、西洋のドラゴンと違って悪竜もいれば善竜もいます。善竜は仏教の守護神、皇帝の権威の表徴、雨をもたらす自然の恵みの象徴として現れます。悪竜は、河川の氾濫など人間を翻弄する過酷な自然現象として現れます。しかし西洋のようにそれを征服するのではなく、豊饒の水をコントロールする竜神として祀ることでなくさめ、鎮めようとします。これは、アジアの稲作や多様性を認める多神教の文化と関連しているようです。東洋の竜の伝承は、「人間」と「自然」との共生を示しています。「竜を退治した騎士」のような、西洋的な英雄物語も勇ましくて良いですが、東洋の竜の考え方には、自然と調和の取れた未来へのヒントがありそうですね。

昔ばなし監修/昔ばなし研究所長 小澤俊夫
取材協力/名古屋大学大学院国際開発研究科教授 櫻井龍彦